平成２６年度第２回独立行政法人造幣局契約監視委員会議事概要

開催日時及び場所　平成２６年１０月２日（木）１０時００分～１１時３０分　造幣局会議室
委　　　　　員　松川　正毅（大阪大学大学院高等司法研究科　教授）（委員長）
　　　　　　　　相原　　隆（関西学院大学法学部　教授）
　　　　　　　　谷口勢津夫（大阪大学大学院高等司法研究科　教授）
　　　　　　　　和田　　馨（独立行政法人造幣局　監事）
　　　　　　　　中津　祐嗣（独立行政法人造幣局　監事）
審　議　対　象　契約状況の点検・見直し
・平成２６年度第１四半期における「競争性のない随意契約」　５件
・平成２６年度第１四半期における「一者応札・一者応募契約」　４件
計９件
・競争性のない随意契約の新規案件　なし
・２か年度連続して一者応札・応募となった案件　３件
・２か年度連続して一者応札・応募となった案件で平成２６年度においても競争入札等を行う予定があるもの　２件

委員からの意見・質問、それに対する回答等
　　　　　　　　下記のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容
　　　　　　　　特になし

意見・質問	回答
「２か年度連続して一者応札・応募となった案件」について （円形・鋳塊について） ・本件のように供給可能な業者が基本的に一者しかいない局面では、一者応札・応募を解消するには内製化をするしかないのではないかと思われるが、今回一者応札・応募案件として報告のあったものの中で内製化の可能性があるものはないのか。	・今回一者応札・応募案件として報告したものについて、現時点で全てを内製化することは、貨幣製造量の急な増減があり得るので、場合によっては無駄な設備等を抱えてしまうという経営リスクもあるが、ご指摘も念頭に置きながらサプライチェーンをどうするか考えていきたい。

「２か年度連続して一者応札・応募となった案件で平成２６年度においても競争入札等を行う予定があるもの」について （青銅鋳塊・白銅鋳塊について） ・予定価格の決定にあたっていろんな情報を集めることは必要だと思うが、あまり業者側の事情をあれこれ推測して予定価格を決めることは、適正な入札という全体の趣旨からするとあまり好ましくなく、より合理的な方法で予定価格を決めることが必要ではないか。	・予定価格作成のため業者側から下見積を徴することは、一般的に認められている方法ではあるが、ご指摘の趣旨も踏まえ、客観性・公正性に配意した適正な査定に努めてまいりたい。